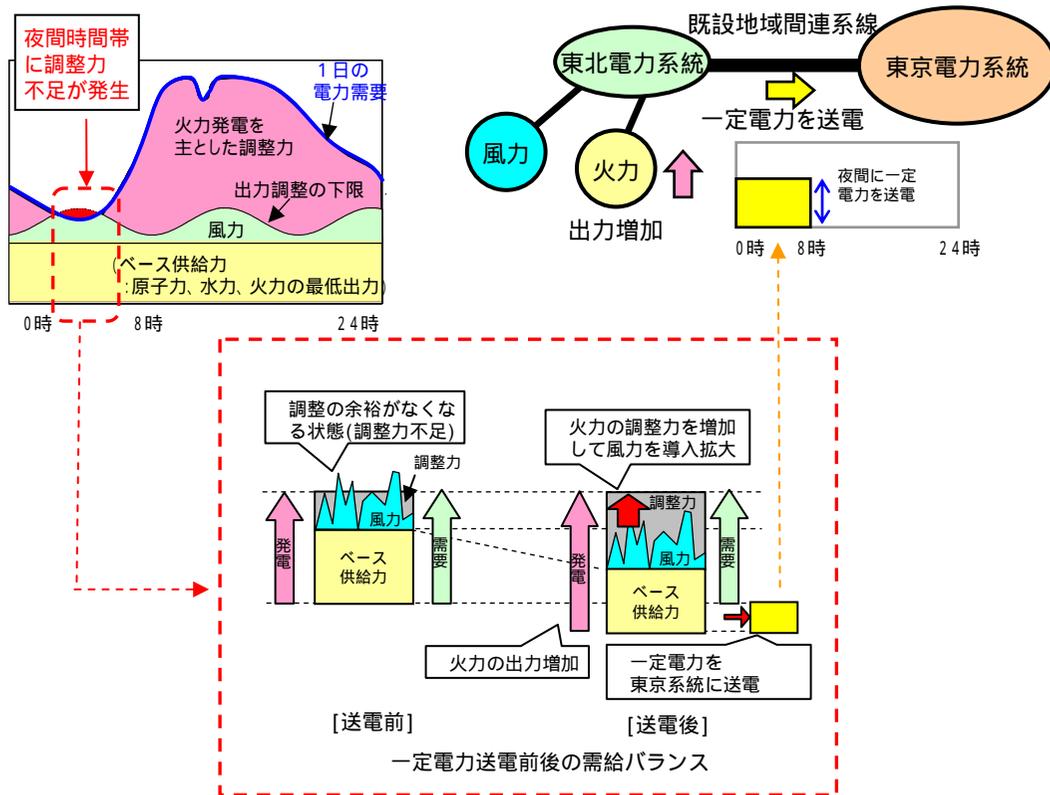


- 概要：既設地域間連系線の活用と風力発電出力制御技術を組み合わせた実証試験により、風力発電の追加連系を実現します。

【既設地域間連系線の活用】

- 当社の調整力に余裕がない時間帯に、東北電力系統内の火力発電出力を増加させ、調整力に余裕がある東京電力系統に一定電力を送電します。
- 出力を増加させることで、当社系統内の火力発電の調整力が増加することから、風力発電の導入量を拡大できます。

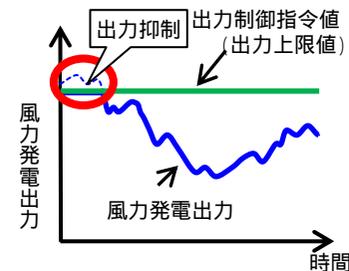


一定電力を送電してもなお、調整力が不足する場合に、出力制御技術を組み合わせることで系統の安定運用を確保

【風力発電出力制御技術の組み合わせ】

東京電力系統に一定電力を送電してもなお、調整力が不足する場合に限り、東北電力からの遠方指令により風力発電の出力抑制を実施します。

- 出力抑制を実施しなければならない状態となった時点で、当社の中央給電指令所より出力抑制の信号を発出することで、出力抑制時間を低減可能



一定電力の送電と出力抑制により、40万kWの追加連系が可能。

当社系統への風力発電の連系実績と今後の連系拡大目標

参考資料2

● 2020年度頃に、当社系統への200万kW程度の風力発電の連系を目指します。

- 実績データの蓄積による評価を継続するとともに、連系線活用や出力制御の効果などについて評価・検討を行いながら、200万kW程度の連系を目指します。

